

短期滞在手術基本料の見直しについて

第1 現状

- 1 短期滞在手術基本料については、日帰り手術及び1泊2日入院による手術を行うための環境及び当該手術を行うために必要な術前・術後の管理や定型的な検査、画像診断、麻酔管理を包括的に評価したものである。
- 2 患者から見て分かりやすい医療を実施する観点から、一層の診療報酬体系の簡素化が求められている。

第2 診療報酬上の評価

A400	短期滞在手術基本料1	2800点	(日帰り手術の場合)
	・ K005	皮膚、皮下腫瘍摘出術等の15種類	の手術が対象
	短期滞在手術基本料2	4800点	(1泊2日入院の場合)
	・ K067	関節鼠摘出術等の19種類	の手術が対象

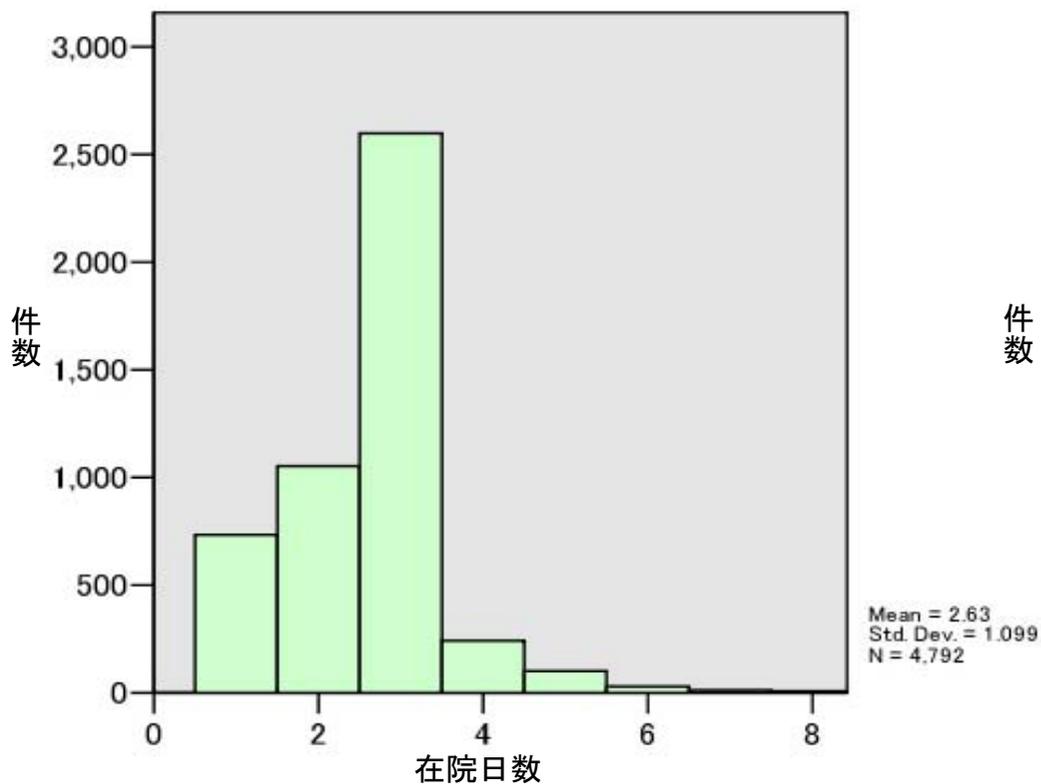
第3 論点

標準的な治療方法が確立されており、手術に伴う入院期間及び費用等に大きな変動がないものについては、術前の検査も含めて1手術当たりの療養に要する費用を定額で算定できることについて検討してはどうか。

15歳未満の鼠径ヘルニア症例における在院日数の分布

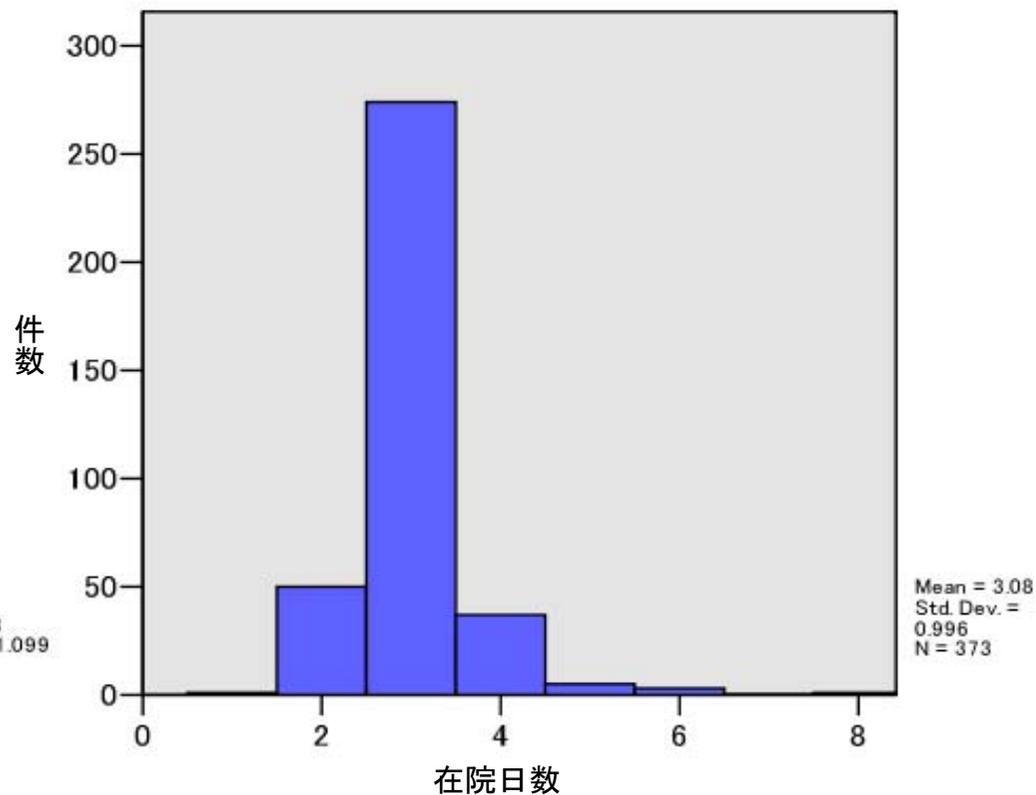
K633 ヘルニア手術 5 鼠径ヘルニア

データ数 4792例 在院日数の平均 2.63日
在院日数の中央値 3日



K634 腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)

データ数 373例 在院日数の平均 3.08日
在院日数の中央値 3日



*平成18年度「DPC導入の影響評価に関する調査」より集計